

中学校社会科(歴史的分野)の近代史の授業開発

—日本の外交と国際連盟脱退—

山名 敏弘

今からおよそ80年前、その後の日本の進む方向を大きく転換させることになるでき事が起こった。日本の国際連盟脱退である。1920年代には、国際的に平和協調外交が展開され、日本もそれに応じて平和協調外交を展開していた。しかし、1933年に日本は国際連盟からの勧告に応じず国際連盟からの脱退を通告したことにより、協調外交の終焉や国際社会からの孤立をもたらした。本授業開発は、なぜ日本が国際連盟を脱退したのかを解明することによって、歴史における大きな転換点であるこの主題の意義を明らかにしていくものである。

1. はじめに

第一次世界大戦後のパリ講和会議の後に結ばれたヴェルサイユ条約やワシントン会議の話し合いをもとに結ばれたワシントン海軍軍縮条約などの諸条約によって、1920年代には、国際的に平和協調外交が展開された。しかし、1931年の満州事変以降、関東軍を中心とする軍部の大陸における軍事行動を抑止することが困難となり、1933年に日本は国際連盟からの脱退を通告し、国際的な平和協調の枠組みから離脱して協調外交の終焉や国際社会からの孤立をもたらした。本授業開発は、国際的に平和協調外交が展開されていたにもかかわらず、なぜ日本が国際連盟を脱退したのかを解明するものである。

2. 協調外交と日本の国際連盟脱退

第一次世界大戦後には、日本は国際連盟の常任理事国という重要な地位を担うとともに、新渡戸稲造が事務局次長を務めるなど国際連盟に大きく貢献していた。また、国際的な平和協調路線に呼応する形で、日本においても幣原喜重郎外相を中心とした協調外交が展開された。しかし、日本の関東軍の起こした柳条湖事件から始まった満州事変によって、事態は急変することとなる。柳条湖事件後に日本政府は不拡大方針をとるが、関東軍はこれを無視して軍事行動を拡大して満州の主要地域を占領し、さらに満州国を建国させた。その後、満州事変は日本の計画的行動であるとする中国の国際連盟への訴えによって、リットン調査団が派遣されることになった。また、国際連盟においては、日本の連盟からの脱退を避けようという動きもあった。しかし、リットン調査団の現地での調査が開始された後に日本政府は満州国の承認を決定した。この背景には、五・一五事件によって政党内閣が崩壊したことがあげられる。満州事変の経緯や実態を調査したリットン調査団の報告書をもとに、国際連盟は満州における中国の主権を認め、日本軍の満鉄付属地内への撤兵や日本が満州国の承認を撤

回することなどを求める勧告案を採択し、国際連盟総会で圧倒的多数で可決した。これに対して日本代表が総会の議場から退場し、その後日本は国際連盟からの脱退を通告した。以上のことから、リットン報告書には満州における日本の権益に理解を示す内容が含まれていたり日本の国際連盟からの脱退を避けようという動きもあったりしたが、日本は満州における中国の主権を認めることなどを内容とする勧告案を受け入れず、国際社会への歩みよりを行うことなく、大陸における日本の権益の確保を重視するため国際連盟から脱退するに至ったのである。

3. 単元と評価規準

(1) 単元名

世界恐慌と第二次世界大戦

(2) 単元のねらい

世界恐慌を欧米諸国や日本はどのように乗り越えようとしたのか、また満州事変はなぜ起こり、日本はなぜ国際連盟を脱退したのか、さらになぜ日中戦争や第二次世界大戦が起こったのかという諸課題を探究し理解を深めることをねらいとする。

(3) 単元計画 (全8時)

- ①世界恐慌(1時間)
- ②世界恐慌と日本(1時間)
- ③満州事変(1時間)
- ④日本の外交と国際連盟脱退…本時
- ⑤日中戦争(1時間)
- ⑥第二次世界大戦(1時間)
- ⑦戦局の悪化と国民生活(1時間)
- ⑧ポツダム宣言と日本の敗戦(1時間)

(4)単元の評価規準

○関心・意欲・態度

世界恐慌以降第二次世界大戦までの世界や日本の動きと変容について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。

○思考・判断・表現

世界恐慌以降第二次世界大戦までの世界や日本の動きと変容について、多角的に考察し的確に表現することができる。

○技能

世界恐慌以降第二次世界大戦までの世界や日本の動きと変容について、資料を効果的に活用して追究することができる。

○知識・理解

世界恐慌以降第二次世界大戦までの世界や日本の動きと変容について理解している。

4. 本時の主題とねらい

(1)本時の主題

日本の外交と国際連盟脱退

(2)本時のねらい

1920年代、国際的な平和構築の枠組みの中で日本も国際協調外交を展開していった。しかし、その後日本は国際連盟を脱退することになる。本時では、このような平和に向けた動きが進んでいた国際社会の中で日本がなぜ国際連盟を脱退するに至ったかということを知り、説明していくことをねらいとする。

(3)本時の目標

- 日本は、第一次世界大戦後世界的な潮流でもあった協調外交を展開したが、満州での権益を維持・拡大するために国際連盟を脱退したことを理解させる。
- ◇第一次世界大戦後、国際連盟の結成やワシントン体制の構築の中で、日本も協調外交を展開したことを理解させる。
- ◇満州国を認められなかった日本は、満州の権益の維持・拡大のために、国際連盟を脱退したことを理解させる。

5. 授業展開過程

	教師の発問	教授・学習活動	資料	習得させたい知識
導入	<p>・これらの資料は、日本が1933年に脱退したある国際機構に関するものである。それは何か。</p> <p>◎日本は、なぜ国際連盟を脱退したのか。</p>	<p>T：資料を配布する</p> <p>T：発問する</p> <p>P：答える</p>	<p>①</p> <p>②</p>	<p>・国際連盟</p> <p>・本時の学習課題を設定する。</p>
	<p>□第一次世界大戦後、国際社会や日本は、どのような状況だったのか。</p> <p>・第一次世界大戦後、国際社会ではどのような動きが高まったのだろうか。</p>	<p>T：発問する</p> <p>P：答える</p> <p>T：説明する</p>	<p>①</p>	<p>・国際連盟の結成・ワシントン会議の開催など平和に向けた動きが高まった。</p>

展 開 1	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連盟について、日本はどのように対応したのだろうか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>	⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連盟へ加盟した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連盟において、日本はどのような役割を果たしたのだろうか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・常任理事国となった。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連盟の中で、活躍した日本人にはどのような人があるのだろうか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>	⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・新渡戸稲造。
	<ul style="list-style-type: none"> ・彼は国際連盟の中でどのような立場にあったのだろうか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・事務局次長として貢献した。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ワシントン会議では、どのようなことが決まったのだろうか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>	⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・英米日などの主力艦の保有量の制限，日英同盟の廃止，山東省内での日本の権益を中国へ返すなど，ワシントン体制の成立
	<ul style="list-style-type: none"> ・このような動きの中で、日本はどのような外交を展開したのだろうか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・協調外交を展開して、国際社会の動きに同調した。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・協調外交を展開した中心人物は誰か。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>	⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・幣原喜重郎。
	<ul style="list-style-type: none"> ・彼はどのようなことを行ったのか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・外務大臣として、ロンドン海軍軍縮条約の調印を実現させた。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後、国際社会や日本は、どのような状況だったのだろうか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>	④	<ul style="list-style-type: none"> □国際連盟の設立やワシントン体制の構築の中で、日本も協調外交を展開していた。
	<ul style="list-style-type: none"> □日本は、なぜ国際連盟の勧告に従わなかったのだろうか。 			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は中国でどのような権益をもっていたか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p>	④	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は満州で関東州や南満州鉄道とその付属利権などさまざまな権益をもっていた。

展 開 2	<ul style="list-style-type: none"> 中国国内で新たな動きが起こったが、それは何か。 	T：発問する P：答える T：説明する	③ <ul style="list-style-type: none"> 蒋介石が率いる国民党が武力による国内統一を進めていた。(北伐)やがて国民党勢力は北京をおさえ、満州も勢力圏に入れようとした。 満州事変。 ⑤⑥ <ul style="list-style-type: none"> 奉天郊外の柳条湖での鉄道爆破事件を機に日本の関東軍が軍事行動を行った。 日本の関東軍。 鉄道爆破を中国軍のしわざとして、軍事行動を行う口実にするため。 不拡大方針を出した。 無視して軍事行動を拡大した。 満州の主要地域を占領し、清朝最後の皇帝溥儀を執政とする満州国を建国させた。 満州国を承認しなかった。 ③ <ul style="list-style-type: none"> 五・一五事件。 海軍の青年将校たちが首相官邸におし入り、犬養毅首相を射殺した事件。
	<ul style="list-style-type: none"> このような中で1931年にある事件が起きるが、それは何か。 	T：発問する P：答える T：説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> 満州事変とはどのようなものか。 	T：発問する P：答える T：説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> だれが柳条湖で鉄道を爆破がしたのか。 	T：発問する P：答える T：説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> なぜ関東軍は鉄道を爆破したのか。 	T：発問する P：答える T：説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> これに対して日本政府はどのように対応したか。 	T：発問する P：答える T：説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> その方針に対して関東軍は、どのような行動に出たか。 	T：発問する P：答える T：説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> さらに関東軍は、どのような行動に出たか。 	T：発問する P：答える T：説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> これに対して日本政府はどのように対応したか。 	T：発問する P：答える T：説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> このような中で、1932年にある事件が起こるが、それは何か。 	T：発問する P：答える T：説明する	
<ul style="list-style-type: none"> 五・一五事件とはどのような事件か。 	T：発問する P：答える T：説明する		

	<ul style="list-style-type: none"> この事件は、どのような結果をもたらしたか。 国際連盟は、満州事変についてどのように対応したのだろうか。 リットン調査団はどのような報告書を出したのか。 この報告書に基づいて国際連盟は、どのような動きをとったのか。 これに対して日本はどのように対処したのか。 協調外交を展開していた日本が、なぜ国際連盟を脱退したのか。 	<p>T：発問する P：答える T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える T：説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大正末期以来8年間続いた政党内閣が崩壊した。 その後の政府が日満議定書で満州国を承認した。 <p>⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> リットン調査団を派遣した。 <p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> 満州事変以降の日本の軍事行動を正当な自衛とは認めない、満州国はその地の民族の自発的な独立運動によって成立したものではないなど。 満州における中国の主権を認め、日本軍の満鉄付属地内への撤兵や日本が満州国の承認を撤回することなどを求める勧告案を採択し、総会で圧倒的多数で可決した。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本代表松岡洋右は議場を退場し、翌月、国際連盟脱退を通告した。 <p>⑫</p> <p>□政党内閣の崩壊や満州事変の拡大という状況の中で、大陸での権益確保を重視したため。</p>
終 結	◎日本は、なぜ国際連盟を脱退したのか。	T：説明する P：まとめる T：確認する	◎日本は、政党内閣の崩壊や満州事変の拡大という状況の中で、大陸での権益確保を重視したことによって、国際連盟を脱退した。

参考文献：

井上寿一編『日本の外交1 外交史 戦前編』
岩波書店(2013)

有馬学『日本の近代4 「国際化」の中の帝国日本
1905～1924』
中央公論新社(1999)

北岡伸一『日本の近代5 政党から軍部へ
1924～1941』
中央公論新社(1999)

入江昭『日本の外交 明治維新から現代まで』
中公新書(2009)

イアン・ニッシュ著 関静雄訳
『MINERVA日本史ライブラリー⑩ 戦間期の日本
外交』
ミネルヴァ書房(2004)

資料：

- ①国際連盟総会における日本の松岡洋右代表の写真：
永井康雄編『決定版昭和史 6 満州事変
昭和6－8年』
毎日新聞社(1984)所収
- ②国際連盟総会における対日勧告案の可決を報じた新聞記事：
『詳説日本史』 山川出版社(2003)所収
- ③五・一五事件を報じた新聞記事：
『グラフィックワイド歴史』
東京法令出版(2012)所収
- ④満州における日本の利権関係地図：
関東州の租借権，土地所有権，居住・往来の自由，
営業権の自由，南満州鉄道，安奉鉄道，撫順炭田，
鞍山製鉄所，満鉄付属地の行政など
『新詳日本史』浜島書店(2010)所収
- ⑤満州事変関係地図：
『グラフィックワイド歴史』
東京法令出版(2012)所収
- ⑥柳条湖事件関係地図：
『グラフィックワイド歴史』
東京法令出版(2012)所収
- ⑦新渡戸稲造の写真：
『詳説日本史図録』山川出版社(2012)所収
- ⑧幣原喜重郎の写真：
『詳説日本史図録』山川出版社(2012)所収
- ⑨リットン調査団の現地調査の写真：
『詳説日本史図録』山川出版社(2012)所収
- ⑩リットン調査団の主な報告：
 1. 満州事変以降の日本の軍事行動を正当な自衛とは認めない。
 2. 「満州国」はその地の民族の自発的な独立運動によって成立したものではない。
 3. 中国の主権を認め，満州に自治政府を樹立する。
 4. 満州における日本の経済的権益の保障(後略)『詳説日本史図録』山川出版社(2012)所収
- ⑪国際連盟規約前文の抜粋：

「締約国は，戦争に訴えないという義務を受諾し，各国間の開かれた公明正大な関係を定め，各国政府間の行為を律する現実の規準として国際法の原則を確立し，組織された人々の間の相互の交渉において正義を保つとともにいっさいの条約上の義務を尊重することにより，国際協力を促進し各国間の平和と安全を達成することを目的として，この国際連盟規約に合意する。」

歴史学研究会編『世界史史料10

二十世紀の世界 I ふたつの世界大戦』

岩波書店(2006)所収

- ⑫日本の国際連盟脱退通告文(1933)の一部：
「…帝国政府ハ平和維持ノ方策殊ニ東洋平和確立ノ根本方針ニ付連盟ト全然其ノ所信ヲ異ニスルコトヲ確認セリ仍テ帝国政府ハ此ノ上連盟ト協力スルノ余地ナキヲ信ジ連盟規約第一条第三項ニ基キ帝国ガ国際連盟ヨリ脱退スルコトヲ通告スルモノナリ」
鹿島平和研究所編 佐藤尚武監修
『日本外交史14 国際連盟における日本』
鹿島研究所出版会(1972)所収

6. おわりに

1920年代，国際的な平和協調外交が展開されていた。にもかかわらず，1933年に日本は国際連盟脱退を通告し，その枠組みの中から離脱してしまう。本授業開発は，その要因を当時の国際情勢やそれに対処した日本の外交を通して資料を用いつつ解明しようとしたものである。また，本授業開発は今年度の教育研究会で行った授業に加筆したものである。研究会にご参加いただいた先生方から貴重なご意見やご示唆をいただいたことに深く感謝したい。今後さらにそれらを授業開発に活かしていきたい。